

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

現代文明社会で活動している人はほとんど例外なく、時間に動かされ、時間をやりくりしながら生活を送っている。時間が足りない、もっと時間がほしい、というのが大方の場合の気持だろうけれども、逆に休暇の日などには時間のつぶしかたに困る場合もあるだろう。私たちはときどき、たくさん仕事をかかえた忙しい人にも、暇すぎてタイクツ^Aしている人にも、時間がまったく平等に与えられていて、しかも自分と誰かとのあいだで時間のやりとりができないことを、この上なく不便で不条理なことだと感じることがある。

時間が足りないと思うときにも、時間をもて余しているときにも、私たちは何回となく時計やカレンダーに眼を向ける。そして、もう、こんなに月日や時間が経ったとか、まだ、これだけしか経っていない、というような感慨を抱く。

(中略)

もう何年ぐらい前になるのか、いわゆるデジタル時計というものが店頭に出現して、わずかのあいだに若い人たちの腕時計がほとんどデジタルに変ってしまった。デジタル時計は正確な上、一目で時刻が読みとれるから、従来のアナログ時計とくらべて格段に便利だろう、というのが使ってみる前の予想だった。

^B a、ある程度の年数アナログ

型の時計に親しんだのちにデジタルに持ちかえた人なら、恐らく全員がそこに妙な違和感を感じとったに違いない。予想に反して、デジタル時計のほうがアナログ時計よりもなんとなく不便なのである。一目で読みとれる数字表示の時刻がどことなく真実味を欠いていて、頭の中でしばらくその数字をぼんやり遊ばせておかないことには時間の実感が生まれてこないのである。

^① この独特の違和感の本質をよく考えてみると、そこから次のようなことがわかってくる。われわれが日常、時計を用いて時間を読みとる場合、われわれは決して物理学者が時間を観測するのと同じタイド^Cでは振舞っていない。われわれが時間を知りたいと思う大部分の場合に、われわれは現在の正確な時刻それ自体を知りたいと思っているのではなくて、ある定められた時刻までに、まだ、どれだけの時間が残されているのか、あるいは逆にある定められた時刻から、もう、どれだけの時間が過ぎたのかを知りたいのである。

朝の出勤までにあと何分残っているか、退庁までにあと何時間待たねばならないか、これだけの分量の原稿を書くのにもうどれだけの時間を費したか、というようなことが気になって時計を見るのである。デジタル時計だと現在の時刻しか表示されないから、あらかじめ決められている時刻を示す数値とのあいだで b をしなくてはならない。アナログ時計の場合だと、二本の針によつてそのつど作られる扇形の空間的な形状とその変化から、この「まだどれだけ」と「もうどれだけ」とを、いわば直観的に見てとることができる。

この「まだどれだけ」と「もうどれだけ」の時間感覚は、二つの数値のあいだの演算によつて与えられる時間の量にはけつしてカンゲンしつくされない、もつと生命的で切実な心の動きである。それは、そのときそのときの局面的な切実さ——たとえば会社に遅刻しそうだとか、試験の解答を全部書けるだろうかとか——を通して、もつと深いところで、われわれの生命そのものの有限性とどこかで繋っているに違いがないような、直接的な存在感に属しているといつてもよい。われわれの実生活においてデジタル時計の与えてくれるインフォーメーションが、どこか不完全で平板で、抽象的であるという感じを伴っているのは、この直接的かつ生命的な存在感が稀薄だということから来るものに違いない。デジタル型の時計は、いわばわれわれを時間に関する離人症[※]のような状態に置いてしまうのである。

アナログ型の時計でも、この「まだ」と「もう」とのなまなましい時間の推移感とは、二本の針と目盛りとの静止的な角度の知覚のみから生まれるものではないだろう。針の運動は、よくよく注意して見つめていないと眼には見えないけれども、それでもやはりわれわれはそこになんらかの動きを感じとっているのである。一見静止しているように見える時計の文字盤の上に、隠れた動きを見ているというところに、デジタル時計には求められないアナログ時計の時間^②の真実味、人間的時間との近さのようなものがあるのだろう。

（木村敏『時間と自己』より）

※離人症：「自分が自分でないような感じ」「外の景色が生きて感じられない」といったように、自分の実在感や現実感といった感覚が失われた精神状態のこと。

問一 二重傍線部 A ～ E について、カタカナは漢字に直し、漢字は読みを書きなさい。

問二 文章中の空欄 a に入るものとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 要するに イ さて ウ ところが エ なぜなら

問三 傍線部①とはどんなものか、本文中の言葉を使って五十字程度で説明しなさい。

問四 文章中の空欄 b に入るものとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 足し算 イ 引き算 ウ 掛け算 エ 割り算

問五 傍線部②とありますが、これを言い換えた部分を、十二字で抜き出しなさい。

問六 次の文 I ～ V について、本文の趣旨に合致しているものに対しては 1、合致していないものに対しては 2 と答えなさい。

I 現代社会において、時間は、われわれに平等に与えられていない。

II われわれが時計を見る最大の目的は、現在の正確な時刻を知るためである。

III アナログ時計は、デジタル時計と比べて、特定の時刻までの残り時間や特定の時刻からの経過時間を、より強い実感を伴ってわれわれに伝える。

IV デジタル時計に表示された数字の時刻は、われわれの過ごす日常生活の時間がまるで非現実的であるかのような、不思議な感覚を生む。

V われわれは、アナログ時計による数値の演算を通して、生命の有限性を悟る。

二 次の設問に答えなさい。

問一 次の熟語と構成が同じものを、それぞれ二つずつ選びなさい。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ① 進退 | ② 就職 | ③ 損失 | ④ 腹痛 | ⑤ 予告 |
| ア 送迎 | イ 失望 | ウ 過去 | エ 崩壊 | オ 後悔 |
| カ 延期 | キ 県立 | ク 激流 | ケ 緩急 | コ 雷鳴 |

問二 次の四字熟語の□に当てはまる漢字を一字で答えなさい。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| ① 異□同音 | ② 首□一貫 | ③ 危機一□ |
| ④ 自□自賛 | ⑤ 試行錯□ | ⑥ 絶□絶命 |
| ⑦ 支離□裂 | ⑧ 意味□長 | ⑨ 大□晚成 |
| ⑩ 付和雷□ | | |

問三 次の□に体の一部の漢字を入れて、慣用句を完成させなさい。

- | | | |
|-----------------------|---|----------------------|
| ① □を冷やす | ： | 冷静さを取り戻す。 |
| ② □によりをかける | ： | 自信のある技量を十分に発揮しようとする。 |
| ③ □が広い | ： | 付き合いの範囲が広い。 |
| ④ □が躍る ^{おど} | ： | 期待や興奮でわくわくする。 |
| ⑤ □を焼く | ： | うまく処理できず、扱いに困る。 |
| ⑥ □を揃える ^{そろ} | ： | 金額を不足なく整える。 |
| ⑦ □で風を切る | ： | 威勢がよく、得意げに振る舞っている様子。 |
| ⑧ □につく | ： | 飽きて嫌になる。 |
| ⑨ □が早い | ： | 食べ物が腐りやすく、長持ちしない。 |
| ⑩ □を掛ける ^か | ： | 特別にかわいがる。 |

問四 次の故事成語の意味を説明しなさい。

- | | | | | |
|------|--------|---------|------|--------|
| ① 杞憂 | ② 臥薪嘗胆 | ③ 五十歩百歩 | ④ 矛盾 | ⑤ 漁夫の利 |
|------|--------|---------|------|--------|